天彦産業 創業130周年

特殊鋼流通業、着実に拡充

樋口社長 〝三方良し〟の精神で

特殊鋼流通の天彦産業（本社・大阪市住之江区、社長・樋口克彦氏＝写真）は、今年1月8日に創業130周年を迎えた。創業日には同社社員、取引関係者など82名が参加し、金剛山への記念登山を実施。山頂に寄贈した電波時計の除幕式を行った。そのほか周年行事としては、陶製の絵画を記念品として取引先に贈呈したほか、2月初旬には豪州・ケアンズへの研修旅行を実施した。

樋口社長は「当社の歴史は山道の如く、先人が切り開いた道をわれわれが歩ませてもらったもの。近江商人の端くれとして〝三方良し〟の精神で事業展開を図っていきたい」としている。

同社は1875（明治8）年に鋸製造業の天彦商店として滋賀県水口町で樋口彦三郎氏が創業。創業当初は製材に使われる前挽鋸を製造、販売していたが、2代目彦三郎氏が通信販売で海外にも販路を広げるなど独創的なアイデアで業容を拡大させていった。3代目彦三郎氏は戦中に日本鋸工業統制組合の資材担当常務理事に就任。鋸の資材となる鋼板などを軍需省から割り当てを受け全国の産地ごとに配分した。このとき培った人脈を活かし戦後は鋼材販売業に転身していった。

鋼材販売業となってからは何度か厳しい経営状況に陥った。1952年にベトナムが独立したのに伴い同国向けの取引、約2700万円（当時の月商の20倍）が不渡りとなった。この苦難を取引関係の深かった木下商店（現三井物産）の支援とその後のインフレで乗り切った。その後も76年には当時の売上高の25％を占める野水鋼鉄（新潟県）の経営危機や85年に宮田鋼商店との合併などがあったが、4代目となる現社長、克彦氏の熱意とバイタリティでクリアしていった。

幾多の試練に見舞われながらも業容は拡大していった。67年には鋸の生産部門を廃止し特殊鋼流通業に専念。72年には東大阪に新社屋と倉庫を建設。自社倉庫建設とシャーリングを導入したことで翌73年には売上高が倍増し年商12億円となった。87年には現在の大阪市住之江区南港南に移転。現在は鋼板、帯鋼を中心に特殊鋼全般を自動車、ヴッシャー、建機、農機具向けに販売している。

今後は加工品の販売比率を現在の売上高比30％から50％に引き上げるため、切断以外の加工にも進出する。また、売上高の25％を占める台湾、中国などとの貿易を発展させるため海外での拠点開設も検討していく。

130周年記念の海外研修（豪ケアンズで）